

山形県



ふるさと創生に向けた 大学との連携

山形県知事

吉村 美栄子

平成30年1月22日



目次

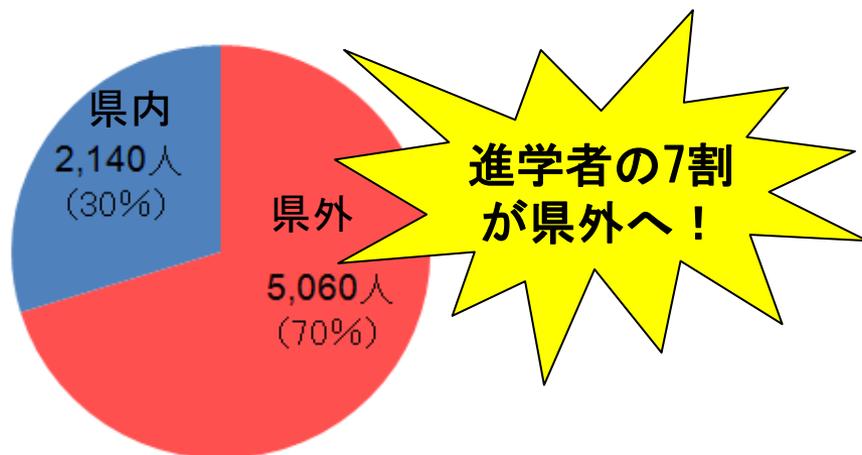
- I 山形県の現状と地方大学の役割
- II 全国の高校生・大学生の意識
 - 1 高校生の進学意識(全国)
 - 2 大学生の就職意識(全国)
- III ふるさと創生に向けた大学との連携に係る主な取組みと課題
 - 1 地方大学の地方創生に向けた取組み
 - 2 首都圏の大学による地方での取組み
 - 3 高等教育機関等における専門人材育成の取組み



I 山形県の現状と地方大学の役割

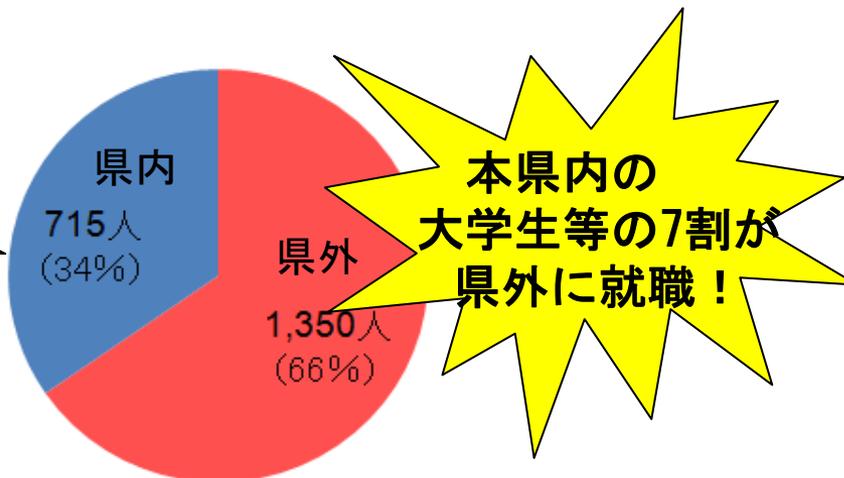
(1) 山形県の現状

(1) 本県新規高卒者の大学等進学状況



「県内の新規高卒者の進路状況(H25~28平均)」

(2) 本県内大学等卒業者の状況



「COC+参加校におけるH28. 3卒業者の状況調査」(山形大学)

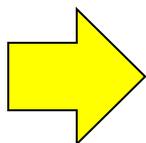
(2) 地方大学の役割

- 若者の地元定着
 - 地域ニーズに対応した人材育成
 - 地域における雇用創出
 - 地方課題の解決への貢献
- ⇒地方創生において重要な役割が期待**

Ⅱ 全国の高校生・大学生の意識

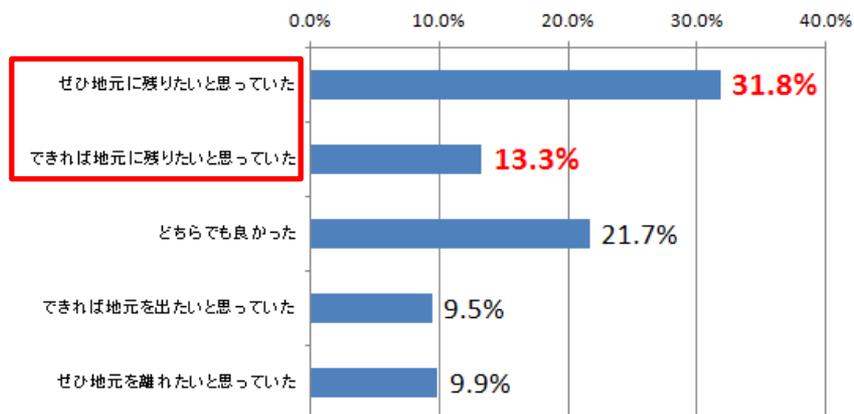
1 高校生の進学意識（全国）

☆強い地元志向 × ☆重視する教育内容



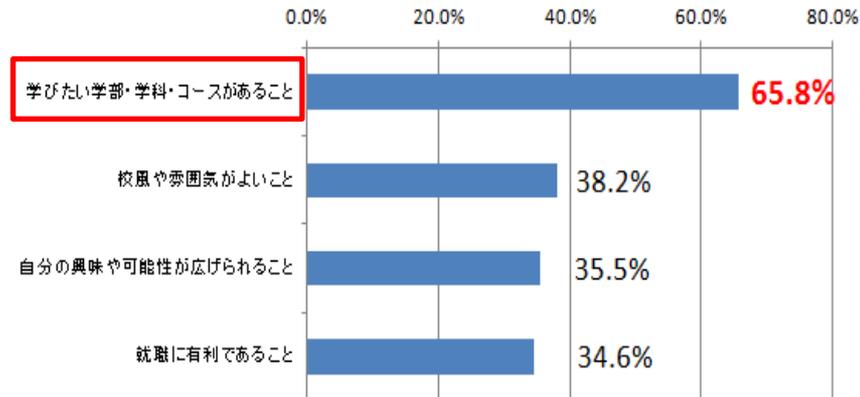
若者の地元進学率を高めるためには
地方大学の教育研究内容・環境等の魅力向上が必要。
併せて、地方大学の魅力発信が必要！

<志望校検討時の地元選択志向>



45.1%が地元志向

<進学先検討時の重点項目>

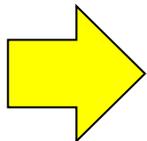


65.8%が大学の教育内容を重視

2 大学生の就職意識（全国）

☆「自分のやりたい、やりがいのある仕事」を重視

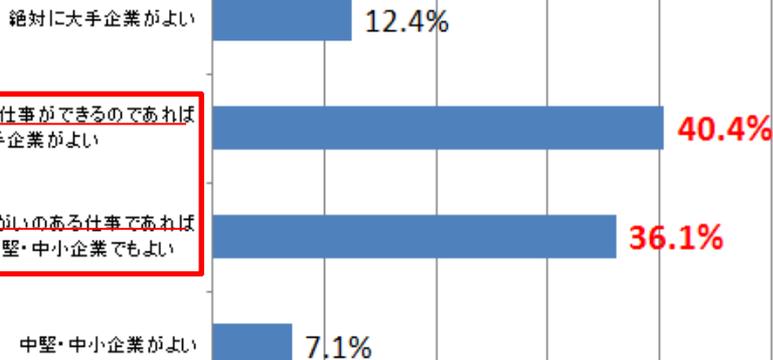
☆職種は、文系が「管理・企画・営業部門」を、理系が「研究・企画・開発・設計部門」を志望



地元就職率を高めるためには、世界最先端技術を有するベンチャー企業の創出をはじめとした関連産業の集積が必要！

<企業志向>

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0%



76.5%が自分のやりたい、やりがいのある仕事を重視

<志望職種>

職種	全体	文系		理系	
		男子	女子	男子	女子
総務・経理・人事などの管理部門	12.9%	16.7%	21.9%	2.3%	3.8%
営業企画・営業部門	27.0%	48.8%	29.1%	7.2%	9.8%
商品企画・開発・設計部門	14.5%	11.4%	14.6%	14.9%	21.0%
研究開発部門	12.3%	0.5%	0.3%	32.5%	28.5%

文系「総務など管理部門」「営業企画・営業部門」
理系「研究開発部門」「商品企画・開発・設計部門」

Ⅲ ふるさと創生に向けた大学との連携 に係る主な取組みと課題



1 地方大学の地方創生に向けた取組み

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

- 山形大学を中心として、県内大学等で地域・企業等と連携したカリキュラムの整備

1年次
地域連携科目
(地域の魅力を知る)

2・3年次
学外研修科目・課題解決科目
(地域・職場と関わる)

4年次
協働研究科目
(地域創生の
ビジョンをもつ)

インターンシップ、フィールドワークの例



「社長インターンシップ」
(山大、公益大)



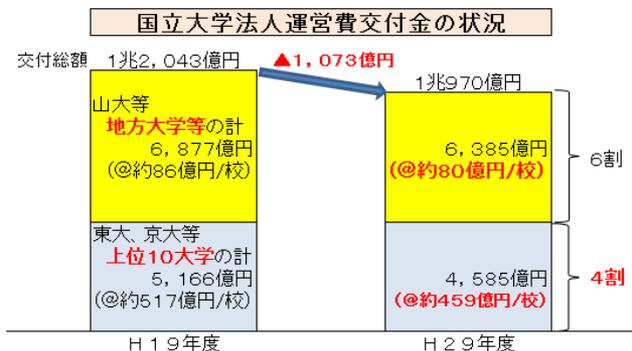
「バラ公園地域デザイン」
公園PRフィールドワーク(山大)



「新商品開発事業提案」
(東北芸工大)

地方大学の運営交付金等

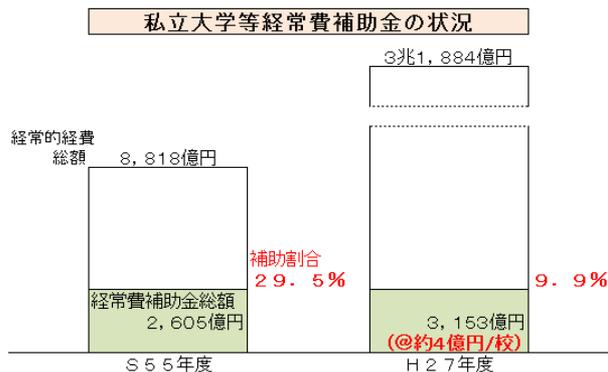
- 国立大学等の運営費交付金は、この10年間で約1千億円（約1割）減
 ※大都市部にある一部の大学に集中する傾向（上位10大学に予算の約4割が交付）



地方国立大学は、交付金の割合が高く、運営基盤の脆弱化による教育の質の低下が懸念（地方創生に逆行）

※旺文社 教育情報センター資料より

- 私立大学等経常費補助金の補助割合は、最大時に比べ1/3に減



私立大学においても、運営基盤の脆弱化による教育の質の低下が懸念（地方創生に逆行）

※日本私立学校振興・共済事業団資料より

課題

国立大学法人運営費交付金や私立大学等経常費補助金等は、十分な基幹経費を確保した上で、各大学の特长ある取組みに応じて加算する仕組みに見直す等、地方大学の安定的な運営基盤を確保していく必要がある。

2 首都圏の大学による地方での取組み

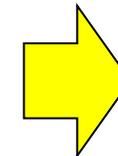
慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス

○山形県・鶴岡市は、慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパスを誘致（平成13年）

取組事例

（1）慶應義塾大学先端生命科学研究所<バイオ分野>

○平成13年度に県及び鶴岡市の誘致により研究所設立
メタボローム解析技術の開発、世界的拠点形成を目指す



- ・大学発ベンチャー企業（6社）
- ・国内外の研究者、研究設備等の集積

○合成クモ糸繊維を核とした産業集積に向けた取組の支援
<Spiber株式会社>

取締役兼代表執行役：関山和秀氏 平成19年9月設立
社員数181名（平成29年10月現在）平均年齢33.2歳



○国立がん研究センター研究連携拠点の設置（平成29年4月、政府機関の地方移転）
国立がん研究センター、慶應先端研、庄内産業振興センターとの共同研究の支援

(2) 特色ある人材育成の取組み

①「先端生命科学プログラム」…大学院生を対象とした通年のプログラム

②「バイオキャンプ」

…慶應義塾大学の湘南藤沢キャンパスの学生が、2学期間（または1学期間）、鶴岡タウンキャンパスに滞在し、最先端の実験機器を実際に使いながら、生命科学の基礎を学ぶプログラム



③「サマーバイオカレッジ」…夏休みに慶應義塾の一貫教育校の高校生が合宿形式で最新の生命科学を学ぶプログラム

④「高校生バイオサミット」…夏休み期間中、全国の高校生が自由研究の成果を発表したり、議論するサミット（2泊3日）

※入賞者は、慶應義塾大学AO入試出願可。



⑤「高校生特別研究生」…将来、博士号をとって世界的な研究者になりたいという大きな夢を持った地元高校生を受け入れて全面的に支援する制度

(3) 民間主導によるサイエンスパークの開発

- 企業集積エリアのほか、宿泊滞在施設、子育て支援施設を整備中
〈YAMAGATA DESIGN (株)〉

代表取締役：山中大介氏 平成26年8月設立

社員数34名（29年12月現在）

事業内容：地域開発、まちづくりを推進するデベロッパー

サイエンスパーク内の開発エリア



宿泊滞在施設
「SUIDEN TERRASSE」
H30夏竣工予定



子育て支援施設
「KIDS DOME SORAI」
H30秋竣工予定



YAMAGATA DESIGN



【慶應義塾大学先端生命科学研究所富田所長の主張と実践】

- 「クリエイティブな研究等は、地方でこそ成し得る。」
- 「ワクワクするサイエンスで、山形に人が集まる成功例を日本に示したい。」

富田所長



課題

首都圏等の大学の地方サテライトキャンパス設置を推進するため、地方側と大学側をマッチングする仕組みの創設や地方でのキャンパス設置の促進に対する特別の財政措置、柔軟な手続き・運用等が必要である。

3 高等教育機関等における専門人材育成の取組み

取組事例

県立農林大学校

- 森林経営をマネジメントできる人材を育成するため、県立農業大学校を農林大学校に改称し、新たに林業経営学科を新設するなど、これからの地域産業を担う人材育成を充実させている。



山形県立農林大学校
林業経営学科 第1期生



地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として活かし、産業振興と雇用の創出を図る「やまがた森林(モリ)ノミクス」を推進！

<地方の強みを活かした事業と人材育成をセットで推進>

専門職大学の制度化

- 専門職業人の養成を目的とする新たな高等教育機関として、専門職大学が制度化（平成29年5月法改正、9月設置基準の制定等）されたが、専門職大学の設立に対する財政支援はない。

課題

新たに制度化された専門職大学の活用も含め、地域特性を踏まえた設立・運営を円滑に行っていくため、国の財政支援が必要である。